

令和5年度各会計予算額

会計区分	令和5年度当初	令和4年度当初	増減額	増減率
一般会計	555億7,000万円	528億7,000万円	27億円	5.1%
水道事業会計	38億5,000万円	37億4,900万円	1億100万円	2.7%
公共下水道事業会計	55億3,300万円	57億700万円	△1億7,400万円	△3.0%
国民健康保険事業特別会計	170億9,600万円	173億2,700万円	△2億3,100万円	△1.3%
介護保険事業特別会計	139億6,800万円	136億400万円	3億6,400万円	2.7%
後期高齢者医療事業特別会計	28億5,700万円	26億8,600万円	1億7,100万円	6.4%
計	988億7,400万円	959億4,300万円	29億3,100万円	3.1%

令和5年度予算を市議会が慎重に審査

～輝くふるさと秦野の未来を切り開くため
積極果敢に挑む予算 原案可決～

市長から提出された令和5年度予算案のうち、「一般会計予算」、そして「水道事業」、「公共下水道事業」の2企業会計予算、さらに「国民健康保険事業」、「介護保険事業」、「後期高齢者医療事業」の3特別会計予算の各議案については、3月2日の本会議において予算決算常任委員会に付託しました。

同委員会は、3月3日、6日、7日に5年度予算審査を行うための各分科会を開催し、所管ごとに集中的な審査を行った後、3月24日に座長報告と採決を行い、本会議で審議の結果、原案のとおり可決しました。(以下質疑、討論などの要旨を掲載)

なお、審査の詳細については秦野市議会ホームページの会議録検索システムをご覧ください。(令和5年3月第1回定例会議の会議録は、5月下旬からご覧いただけます。)



一般会計 総務分科会

公債費について

問 令和3年度に借り入れた臨時財政対策債については今後の償還に備え、財政調整基金に積み立てていた財源を活用し、繰上償還を行うことで利子負担を軽減できるとのことだが、その効果額はどのようか。

答 対象である臨時財政対策債は、地方公共団体金融機構から借り入れているが、5年9月までに繰上償還した場合、償還の期限となる23年度までの総額で661万7000円の利子負担の軽減を見込んでいる。

要望 今後も、未来への投資や負担軽減につながる施策に積極的に取り組み、歳入の確保や歳出の削減に努め、市民に分かりやすく健全な財政運営に努めてほしい。

自治会連合会活動支援事業費について

問 市の行事や防犯、防災情報にパソコンやスマートフォンを通してアクセスできる、自治会SNSアプリ「いちのいち」は、操作が不慣れな人への対応や、なりすましの対策が必要と考えるがどうか。

答 各自治会で、操作が不慣れな高齢者には見守りを兼ねて回覧板を回す工夫をしている。なりすましがあ



自治会・町内会SNSアプリ「いちのいち」

った場合は、管理者である小田急電鉄株式会社が不適切な投稿を削除するなど、安全な運用に努めている。

固定資産税賦課費について

問 固定資産の適切な把握、評価を図るため、家屋の異動状況調査を毎年度実施しているが、令和5年度はAIを用いた業務改善を行うとのことである。期待される効果はどうか。

答 従来は、課税の基準となる毎年1月1日時点の空中写真を目視により見比べて差異を抽出していたが、AIの機能を活用することで、取り壊された建物と新築したものを的確に把握し、事務の効率化を推進するものである。

消防施設維持補修事業費について

問 消防施設の老朽化による設備更新や職場環境の改善をするため、必

要な施設の改修をすべきと考えるが、令和5年度における計画はどうか。

答 鶴巻・大根の2分署で予定しており、鶴巻分署は仮眠室を除く空調設備の更新を、大根分署は事務室の床などの内装工事を中心とした施設の改修を予定している。

要望 大根分署は、建設から45年が経過し、敷地も狭いため、将来的には移転再整備も視野に入れていると思うが、今後も職場環境の整備に取り組んでほしい。



改修が予定されている消防署大根分署

一般会計 文教福祉分科会

障害児早期療育推進事業費について

問 発達に遅れのある児童の心身の成長を促すことを目的とした本事業について、医療面での日常的なケアを必要とする医療的ケア児への支援に新たに取り組むとのことだが、具体的な支援内容はどのようか。

答 相談事業所などに、医療的ケア児等コーディネーターを配置し、保護者の相談などに対応するとともに、アドバイザーを保育所などに派遣し、



「ことばの相談室」がある保健福祉センター

職員へ対応方法を指導・助言する取り組みを独自に行う予定である。

要望 子どもの発達障害には早期発見・早期療育が求められるため、発達検査や言語訓練などを行う「ことばの相談室」のサテライト相談室を大根・鶴巻地区に開設してほしい。

放課後児童健全育成推進事業費について

問 放課後児童ホームの対象を小学6年生まで拡大するに当たり、校舎から独立した建物を使用しているなどの要件に合致した末広小学校をモデル校とするとのことだが、実施に伴う課題への対応はどのようか。

答 学校によっては新たな教室の確保が必要となることに加え、実務を担う放課後児童支援員の不足を解消することや幅広い層の児童に対応できる人材の育成も求められており、実施状況を検証し、準備を進めたい。

要望 支援員の不安を解消するため、新たに教職員経験のあるコーディネーターを配置することであり、

支援員のモチベーションが低下しないよう、十分に配慮してほしい。

意見 対象学年の拡充に当たり、保護者のニーズを把握したとのことだが、利用者である子どもの満足度についても十分に検討すべきである。

地域部活動推進事業費について

問 地域部活動の推進は、運動部のみが先行しがちだが、令和4年度は運動部に加え、県内で唯一、文化部の実証研究として南中学校吹奏楽部の段階的な地域移行に取り組んだとのことだが、今後の課題はどうか。

答 従来の部活動顧問は、技術面の指導だけでなく、スケジュール管理なども担っており、運営面のサポートが課題と考える。さらに、生徒や保護者の期待や不安への丁寧な説明が求められる。

要望 指導を望む教職員もいるため、指導者として兼職・兼務できる体制を整備し、子どもたちのための地域部活動を目指してほしい。

郷土文学資料収集等経費について

問 本市ゆかりの歌人である前田夕暮の生誕140周年記念事業を実施することだが、ゆかりのある他自治体との連携を目的とした「夕暮ネットワーク」構築の考えはどうか。

答 生誕記念事業は100周年以降、10年ごとに取り組んできた。市立図書館に記念室を整備するなど、情報の拠点は本市であると考えている。一過性とならないよう、他自治体などとの連携を検討したい。



「夕暮のさと」の石碑